

さくらでつなぐ

春
の

くま
が
や

歴史と名所

Kumagaya

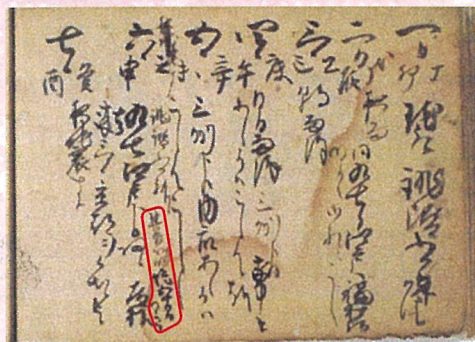




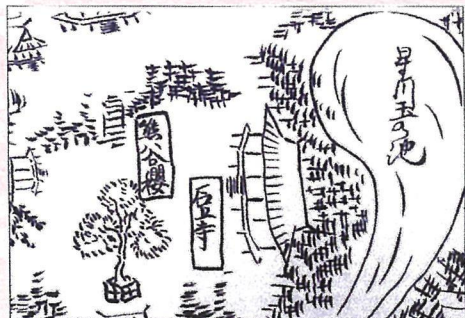
熊谷桜堤の歴史について



関東平野を流れる二大河川の利根川と荒川。その荒川が流れる熊谷のまちを洪水から守るために築かれた堤を、人々は親しみを込めて「熊谷堤」と呼びます。赤城おろしの冷たい風が吹く冬を越えて、日差しも温かな春になると、この熊谷堤に植えられたソメイヨシノの花が満開となります。そして堤に上ると上流から下流まで約2kmに渡る、見事な桜並木を見渡すことができます。この桜並木は熊谷桜堤と呼ばれ、平成2年(1990)に日本さくらの会から「日本さくら名所100選」の一つとして選ばれています。それではこの熊谷堤、そして熊谷の桜の歴史をひも解いてみましょう。



①『家忠日記』



②宝暦2年の町絵図



③狂歌師・三陀羅法師の歌碑
「我も其 阿弥陀笠着て咲く花に うしろは見せぬ 熊谷さくら」

江戸時代の熊谷堤

熊谷堤のことが資料上で見られるのは、徳川家康が関東に入府したときの、忍城の城主であった松平家忠おしじょうが書いた『家忠日記』です。それによれば、天正19年(1591)の記事に「熊谷筋堤五十間つき候」とあり(写真①赤枠内)、この時期に熊谷堤が造られたことがわかります。また、江戸時代末頃に幕府によって編纂された『新編武蔵風土記稿』にも熊谷堤のことが書かれていて、江戸時代には熊谷堤があったことがわかります。

それではこの熊谷堤はどこに築かれた堤でしょうか。昭和8年(1933)の地図を見ると、現在の熊谷市本石の松岩寺付近から鎌倉町せきじょうじの石上寺を通り、新幹線高架下から熊谷駅の南口を過ぎて行田方面へ続く堤があったことがわかります(写真⑤)。この堤が熊谷のまち、そして忍城とその城下町を洪水から守っていました。この時代の熊谷堤を「旧堤」、現在の熊谷堤を「新堤」と呼ぶことにします。

この旧堤について、宝暦2年(1752)の町絵図を見ると、石上寺のあたりに「熊谷櫻」と書かれています(写真②)。さらに、文化5年(1808)に建てられた江戸の狂歌師・三陀羅法師さんだらほうしの歌碑に、熊谷の桜の歌が刻まれています(写真③)。また、天保6年(1835)頃の『忍名所図会』にも、旧堤の桜が人々の目を楽ませていたことが書かれていて、熊谷の桜が世に広まっていたことがわかります。この桜は忍藩主おしはんしゆが植えたとされています。

その後、安政6年(1859)の荒川の大洪水で石上寺が浸水し旧堤は破堤、桜樹は流失しましたが、時の忍藩主まつだいらただくに松平忠国が再び桜樹を植え付け、江戸上府の折に「さくらさく 言伝もなし 都鳥」という俳句をしたためて石上寺に寄せ、観桜の宴を開いたほど桜の木の保護に尽力しました。

このように旧堤と桜は、江戸時代を通して人々の生活を守り、目を楽ませ大切にされてきましたが、明治維新後は急激な時代の変化によって名勝を顧みる者が減ってしまい、桜樹は2、3の株を残すだけとなり、その一帯は無残にも塵芥の捨て場となってしまいました。

明治時代以降の熊谷堤

明治16年1月、同年7月の鉄道開通を控え、熊谷町(後の熊谷市)の有力者、竹井澹如^{たけい たんじょ}や林有章^{はやしありあきら}らは、線路付近の堤に桜樹を植え付け、荒廃してしまった堤周辺もきれいになり、人々が汽車で桜を見に来遊するだろうと考えました(写真④)。そこで巢鴨染井^{もうりこうべつてい}の毛利候別郎から吉野桜380本、彼岸桜50本、名物桜20本を購入し、堤に桜の木を植え付け、旧堤の桜堤が完成しました。

その後、桜堤の保護の必要性を感じた林は、明治39年、竹井らと相談して保勝会^{ほしょうかい}を設立し、桜堤の維持や桜の植樹に苦心しました。この努力が実り、桜堤はますます見事となり、毎年の観桜客が増大したため、林は観桜客用の建物「桜雲閣^{おううんかく}」を設置しました。残念ながら大正14年の熊谷大火で焼失してしまいましたが、観桜客をもてなす建物として多くの人々に利用されました。

このように、観桜客で盛んになった旧堤の桜は、吉野、小金井と並ぶ三大名花の一つと称せられ、昭和2年には国の史跡名勝天然記念物に指定されました。この指定を記念した石碑は、現在、万平公園^{まんぺいこうえん}内の旧堤の上に建っています。

ここからは新堤の桜並木についても触れていきます。明治時代までの熊谷付近の堤防は、所々が切れている堤防でした。そこで国は大水害を避けるために、堤防の切れ間をなくして強固な連続堤を造る工事を始めました。この頃の旧堤の桜は、熊谷大火で大きな被害を受け、また戦争による戦時動員のために桜を保護する人手も不足し、加えて桜の木の寿命も迎えてきたため、桜堤として次第に見る影が無くなってきてしまいました。

そこで昭和16年に、熊谷市は新堤に桜堤の再興を考え、栃木県西那須野より買い付けたソメイヨシノのうち200本を新堤に植え付け、次いで市制施行20周年を翌年に控えた昭和27年には、川口市安行からソメイヨシノ200本を購入して桜樹の本数を増やしました。この新堤の改修工事は昭和29年に完了し、昭和30年に新堤緑地(用途「桜堤」)として約0.7haが指定されました。

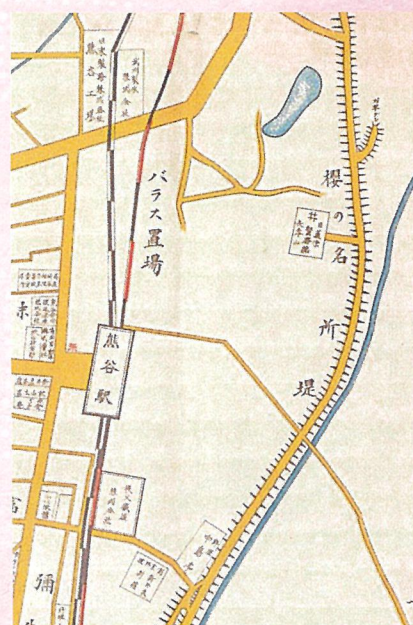
これにより、旧堤は昭和33年に史跡名勝指定が解除となり、「熊谷堤の桜」発祥の地である石上寺の一角と万平公園の一部を残す条件で取り壊されました。桜堤となった新堤には、旧堤を凌ぐほどの桜の木が植えられ、現在では「日本さくら名所100選」に選ばれるほどの桜の名所となっています(写真⑥)。

ここまで、江戸時代、明治時代以降の熊谷の桜堤について歴史を振り返ってきました。江戸時代、旧堤が桜の名所として人々の歌や俳句に詠まれ、明治時代には日本の桜の三大名花の一つと称されるようになりました。その後、新堤が築かれると、旧堤は一部を残して無くなり、「桜の名所」は新堤に引き継がれました。

熊谷市の「市の花」は桜です。この桜堤の他にも市内にはたくさんの桜の名所があります。春うららかな日に、熊谷の桜名所めぐりに出かけてみませんか。



④旧熊谷堤(明治から昭和初期)



⑤昭和8年の熊谷市地図より



⑥新堤の桜堤

くまがや さくら マップ

Kumagaya Sakura Map



1 万平公園



Googleマップ

万平公園は旧熊谷堤沿いに造られた公園で、かつて洪水を防ぐために造られた突堤の名称を引き継いでいます。その突堤は「万平出し」と呼ばれ、江戸時代に熊谷宿本陣を務めた竹井家の第14代当主で、築堤工事に尽力した竹井澹如翁の幼名「万平」から名付けられています。公園内には「竹井澹如翁碑」や養蚕と深い関わりのある「蚕霊塔」、旧熊谷堤への桜の植樹を記念した石碑などが建立されています。



2 熊谷桜堤



Googleマップ

昭和16年頃から築堤、桜の植樹が始まり、昭和29年に新しい熊谷堤として完成しました。荒川河川敷沿いに約500本のソメイヨシノが咲き誇り、およそ2kmにおよぶ桜のトンネルをつくります。平成2年3月には、公益財団法人日本さくらの会から「日本さくら名所100選」に選定されました。毎年3月下旬から4月上旬には「熊谷さくら祭」が開催され、多くの観桜客で賑わいます。



3 中央公園



Googleマップ

公園内には、円山公園(京都市)のシンボル「祇園枝垂れ桜」の孫桜が、桜守の第16代佐野藤右衛門氏によって2本移植されており、熊谷直実公の娘とされる「玉津留姫」、「千代鶴姫」の名が付けられています。その他にも、12代目市川團十郎丈お手植えの駿河小町や、熊谷桜、兼六園熊谷など、たくさんの貴重な桜を見ることができます。



4 石上寺



Googleマップ

石上寺は江戸時代から「桜の寺」として広く知られていました。歴代の藩主もたびたび石上寺を訪ね、観桜の宴を催したという歴史があります。境内には、源平合戦での熊谷直実公の先駆け(先陣)争いになみ名付けられた早咲きの品種、熊谷桜が市民との協働により植樹されており、ソメイヨシノに先駆けて花を咲かせます。



5 熊谷さくら運動公園



Googleマップ

野球場、室内プール、テニスコートなどが揃う運動公園で、毎年3月に開催される熊谷さくらマラソン大会ではメイン会場になります。名前のとおり、公園内には十数種類の桜が植樹されており、中でも最も早く開花するのが、陸上競技場周辺に植樹された河津桜です。ソメイヨシノの数も多く、園内散歩しながら、早咲きの河津桜から始まる桜の競演を楽しむことができます。



6 熊谷スポーツ文化公園



Googleマップ

平成16年に開催された「彩の国まごころ国体」のメイン会場となり、令和元年には、公園内の熊谷ラグビー場がラグビーワールドカップ(TM)2019日本大会で試合会場の一つになりました。熊谷ラグビー場近くの展望広場を囲むように桜が植樹され、また、各所の散策路、芝生広場、ジョギングコース付近などにもたくさんの桜が植樹されており、シーズン中は春爛漫な風景を楽しむことができます。



7 別府沼公園



Googleマップ

別府沼を中心に整備された公園で、「遊具広場」や、桜が美しい「熊谷の森」を中心とした東側エリアと、初夏になると花菖蒲が美しい「花菖蒲園」、公園広場が広がる西側エリアがあります。公園内にはソメイヨシノの他、桜熊谷(さくらくまがい)や兼六園熊谷等、熊谷(くまがい)と名の付く桜の品種が植えられています。周囲を桜の木に囲まれた大きな芝生広場のほか、ジョギングコース、ウォーキングコースでは散策しながら花見が楽しめます。



8 下奈良「桜の園」 (新奈良川第一調節池)



Googleマップ

市内を流れる準用河川新奈良川には、洪水時に河川の流量を調節するための施設として、下奈良地区に第一調節池が設置されています。この調節池の周りには、下奈良地区の住民が協力し、多くの有志の浄財を集めてソメイヨシノ64本などが植樹されました。春から初夏にかけて、桜や薫風を感じることができる隠れた名所となっています。



9 妻沼聖天山



Googleマップ

平安時代末期に妻沼地域を治めていた齋藤別当実盛公さいとうべつとうさねもりによって開基した妻沼聖天山めづまじょうてんざんは、家内安全・商売繁盛・厄除け開運などあらゆる良縁を結ぶ御利益があることで知られ、「埼玉日光」として人気を集めています。江戸時代中期に建立された本殿「かんぎ いんしやうてんどう 歓喜院聖天堂」は、日本を代表する本格的装飾建築の一つで、国宝に指定されています。本殿に向かう参道には、ソメイヨシノが植樹され、一層の彩りを添えています。



10 備前渠用水



Googleマップ

「びぜんぼり 備前堀」の愛称で親しまれている備前渠びぜんきょは、慶長9年(1604)に関東郡代の伊奈備前守忠次いな びぜんのかみただつとが江戸幕府の命で開削した埼玉県最古級の用水路です。今でも素掘りの所が多く、当時の面影を残しています。長い歴史や優れた景観を誇る疎水として「疎水百選」に選定されたほか、令和2年には「世界かんがい施設遺産」に登録されました。妻沼地域の用水浴いには多くのソメイヨシノが植樹され、散策路を彩ります。



11

荻野吟子記念館 荻野吟子生誕之地



Googleマップ

荻野吟子記念館と熊谷市指定文化財・史跡「荻野吟子生誕之地」を含む史跡公園で、シーズンになると早咲きの河津桜を見ることができます。この河津桜は、日本初の国家試験に合格して女性医師となった、熊谷市俵瀬出身の荻野吟子の誕生日(3月3日)頃に見頃を迎えることから、吟子を慕う人々から親しみを込めて「吟子桜」と呼ばれています。



12

根岸家長屋門



Googleマップ

江戸時代後期に建てられた根岸家長屋門は、幕末の激動期に活躍した根岸友山と、明治時代に政治家・好古家として活躍した息子、根岸武香の生家に建てられている門で、熊谷市指定文化財・建造物となっています。満開の桜と風格ある建物のコントラストは圧巻で、郷土のシンボルとして愛されています。



13

桜りバーサイドパーク



Googleマップ

平成11年4月に相上・玉作地内の和田吉野川右岸にオープンしました。園内にはローラーすべり台などの遊具が設置されているほか、ジャブジャブ池や自由広場、バーベキュー広場があります。河津桜やソメイヨシノなどの桜が1.4kmに渡り植樹され、お花見を楽しみながら遊ぶことができます。周囲にはのどかな田園風景が広がり、多くの家族連れやグループが春の到来を楽しみます。



14

小江川1000本桜



Googleマップ

地元の自治会が平成21年度の熊谷市協働事業提案制度に応募し、事業として採択され植樹がスタートしました。毎年度、荒廃地を切り拓いて、その土地に桜の苗木100本ずつ、10年間で1000本植樹する計画を立て、平成31年度に完了することができました。その桜並木は5.2kmに達し、濃いピンク色の花を咲かせる神代曙と里山とのコントラストが楽しめ、散策やハイキングロードとして親しまれています。



15

江南地域三本地区



Googleマップ

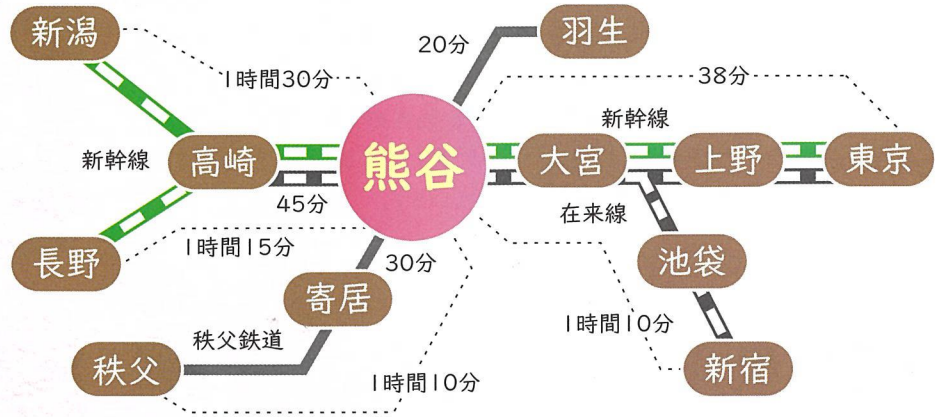
三本地区の江南荘へと向かう道は、春になると桜のトンネルとなり、頭上に広がる桜の美しさに感動を覚えます。近くを流れる和田吉野川には菜の花が咲き、周辺の田園風景とともに春の鮮やかな景色が広がります。その先の高台にある駒形公園には、周辺を囲うように桜が植樹されており、公園内にある東屋は桜鑑賞を楽しむ人々の憩いの場となっています。



交通アクセス

電車でのアクセス

熊谷駅から東京駅まで新幹線で約38分。JR上越・北陸新幹線、JR高崎線及び秩父鉄道の各鉄道路線が直結しています。



車でのアクセス

関越自動車道や東北自動車道2路線からアクセスが可能です。

- 関越自動車道…
東松山ICから約30分
花園ICから約30分
- 東北自動車道…
羽生ICから約40分



熊谷さくら祭

毎年3月下旬～4月上旬

熊谷桜堤(熊谷市河原町)

江戸時代から桜の名所として知られ、平成2年には(公財)日本さくらの会から「日本さくらの名所100選」に選ばれました。約500本のソメイヨシノがおおよそ2kmに渡り咲き誇り桜のトンネルをつくれます。祭期間中はライトアップされた夜桜も楽しめます。



熊谷桜堤へのアクセス

- 電車 で：JR高崎線、上越・北陸新幹線、秩父鉄道
熊谷駅南口から徒歩5分
- 自動車で：関越自動車道
東松山ICから国道407号で約30分



夜の桜堤は
幻想的!